

川崎田園都市病院

認知症診療部門



「こころ」も「からだ」も
こまやかに手当てする

そのような認知症医療が
私たちの務めです

私たちの「物忘れ・認知症外来」が 大切にしていること

「認知症かもしれない…」。

外来待合室で、ご本人の自尊心は揺らぎ、
ご家族は疲れていらっしゃることでしょう。
精神科医は、来院なさった方々の心労に耳を傾け、診察を始めます。

認知症かどうか区別するため、血液検査やレントゲン検査を行います。
からだの病気がもとで記憶力や判断力が低下し、一見認知症のように見える
ことがあるからです。この場合、内科医が治療に関わります。

認知症は、アルツハイマー型、血管型、レビー小体型など、
さまざまに分類されます。この分類は治療薬を選ぶために必要です。
さらに、私たちは迷い物想います。
「どう生きてきた人が、どう生きづらくなったのか…」と。
その糸口をご本人やご家族の自然な語りに求めます。

認知症の病名を差し出せば、その方やご家族は、新たな重荷を背負いながら
日々を送られることでしょう。私たちは、その荷が少しでも軽くなるよう、そして
「できるだけ豊かで無理のない人生をまつとうなさるよう」
援助することを本分と心得ます。

認知症の症状は物忘れだけではありません
こんな変化がご家族にみられませんか



- 料理の味つけが変わり、献立が単調になった
- 日用品の使い方や着衣がおぼつかなくなった
- 言い誤り（たとえば「鉛筆」→「えんてつ」）
- 怒りっぽくなった（沈みこむようになった）
- 幻が見える（聴こえる）
- 立ちくらみが多い

入院について

—「こころ」と「からだ」に滋養を —

認知症や、それに重なるからだの病のため、ときに入院が必要になります。慣れ親しんだ生活環境には、人生の根が地中深く伸びています。入院とは、その根を異なる土壤にかりそめに植えかえることです。

無理に引き抜けば根が切れます。本来根づいていた場所とのつながりを絶やしてもいけません。つながりを保つのは、ご本人の自尊心とご家族です。入院し自らを他人の手に委ねることになった方々の“恥の感覚”や“寄る辺なさ”は、いかばかりでしょうか。それを察し、支える添え木でありたいと私たちちは思います。

ご本人の人生の根に養分がしみ込むよう祈りながら、治療・看護・介護に当たります。このために精神科と内科が協力し、すべての職員が病棟を肥沃に保つことが、私たちの務めです。

精神科医と内科医とが連携して治療にあたります



✿ さまざまな入院相談をお受けしています ✿

「からだの病気で入院していますが、認知症のため転院を勧められました。からだの治療も受けられますか」

「認知症のためショートステイが利用しにくくなりました。
短期入院できますか」

「介護者も高齢で疲れています。長く入院できますか」

「若年性認知症と診断されました。
高齢者でなくても入院できますか」

「認知症病棟に入院すると、どんな療養生活になりますか」

「介護保険で入院できますか」



医療相談室で相談員と精神科医が対応します。ご家族だけの外来受診でも相談いただけます。

地域の認知症医療を担うべく 私たちは研鑽を続けます

みどりに囲まれて



春には桜



患者さんと職員で寄せ植え



地域の音楽家の皆さんによる演奏会



散歩道



物忘れ外来・老人性認知症外来のご案内 予約制です

物忘れ外来

火・木午後

加齢による物忘れか、認知症によるものかを見立てます。

老人性認知症外来

月・火・木・金午前

入院相談をお受けします。

物忘れ外来も行っています。

水・木午後

外来診療時間

	受付時間	診療時間
午前	9:00~11:30	9:30~12:00
午後	12:30~15:00	13:00~15:30

休診・変更になる場合がございます。
受診前にお問合せください。

川崎田園都市病院
☎ 044-988-1118

〒215-0023 神奈川県川崎市麻生区片平1782番地 FAX:044-988-0009